

世界アルツハイマー月間 知らねばまいね

認知症

参加無料
入退場自由

9/15 月 10:00~15:00

ヒロロ3F 多世代交流室 |

イベントスペース

1994年、国際アルツハイマー協会(ADI)と世界保健機関(WHO)は
毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と宣言しました。

この日を中心に認知症に関する意識と理解を高め、
世界の患者に支援と希望をもたらすことを目的としています。

また、9月を「世界アルツハイマー月間」として、
世界中の人々や組織が様々な取り組みを行うよう呼び掛けています。

○講話○ 認知症を学ぼう！

午前の部 11:00~12:00

午後の部 13:00~14:00

講話① 11:00~11:20 13:00~13:20
専門医が教える！実はこれも認知症のサイン

講話② 11:20~11:40 13:20~13:40
認知症のお薬についてー作用と安全性ー

講話③ 11:40~12:00 13:40~14:00
「つながり」を大切にする認知症看護のコツ
～「その人らしさ」を支えるために～

企画 10:10~10:30 14:30~14:50
認知症の人の心の世界を体験してみよう！

小さなお子様連れも
大歓迎！！

10:00~15:00 随時開催
モールフラワーづくり (所要時間15分程度)
モールを使ったお花づくりです。好きな色で
チューリップを作りましょう。どなたでも簡
単に作れます♪

主催 弘前大学医学部心理支援科学科老年臨床心理学研究室
後援 (公社)認知症の人と家族の会青森県支部
問合せ先 TEL 0172-39-3184 (大庭研究室直通)



認知症って何？

脳は、私たちのほとんどあらゆる活動をコントロールしている司令塔です。それがうまく働かなければ、精神活動も身体活動もスムーズに運ばなくなります。

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態を指します。

どうしてオレンジ色？

認知症のシンボルカラーはオレンジです。オレンジ色が認知症に対する理解と支援を象徴しているのはなぜでしょうか？この背景には江戸時代の陶工、酒井田柿右衛門が夕日に映える柿のような赤絵磁器を創り、世界で人気を博したことがありました。オレンジ色には「世界で認められるように」という願いが込められているのです。

講話① 平野敬之さん(弘前愛成会病院 認知症専門医)

専門医が教える！実はこれも認知症のサイン

認知症には物忘れ以外にもサインになる症状がいくつかあります。反対に、認知症に似ているけど違う症状もあります。今回はそれらのポイントや受診のタイミング、対応の考え方をわかりやすくご説明します。

講話② 加福雅行さん(認知症の人と家族の会青森県支部 副代表・薬剤師)

認知症のお薬についてー作用と安全性ー

1970年代に、認知症を発症された方の脳内では記憶に関与する神経伝達物質であるアセチルコリンが減少していることが提唱され、日本では1999年に塩酸ドネペジルが臨床の場に登場しました。25年後の現在、新たな薬のシカネマブ・ドナネマブが認知症治療の扉を開こうとしています。

講話③ 葛西愛子さん(弘前大学医学部附属病院 認知症認定看護師)

「つながり」を大切にする認知症看護のコツ～「その人らしさ」を支えるために～

認知症の人と家族が住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように、看護師としての視点と関わりのポイントを写真などで見ていただき、今日からできるケアの方法を紹介します。

企画 大庭輝さん(弘前大学医学部心理支援科学科 公認心理師)

認知症の人の心の世界を体験してみよう！！

心理学実験で用いられる課題を使って、認知症の中核症状である「認知機能」がどのように使われているか体験してみましょう。

